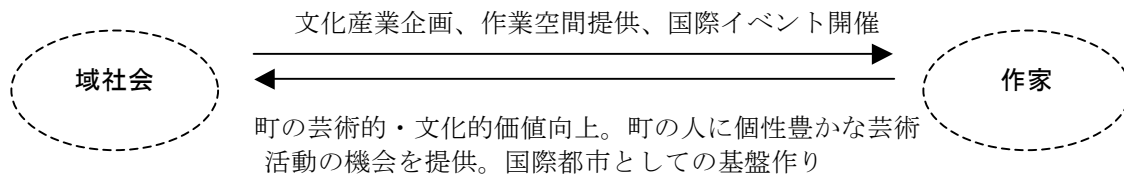


地域社会と地元作家の理想的な協力関係

富川大学 キム・ドンボム

地域社会と作家の理想的な協力関係とはどんなものだろうか。共存・共生していくにはどうすべきか。その答えは簡単だ。地域社会は作家に才能の発揮できる場を提供し、作家はそこで磨き上げた自分の才能を思う存分発揮し地域社会の発展に貢献するのだ。では地域社会はどうすれば作家のための場を提供できるのか。それは様々な文化産業の企画を通し、漫画家に仕事のチャンスを与えることがひとつの可能性だ。一方、作家はその仕事を通して自分の作品を世に出すことで、継続して芸術活動ができる一定の収入を得ることも可能になる。地域社会にとっては作家という優れた文化資源を通し文化産業を成功に導き、その結果地域社会の芸術的地位を高めることができるし、そして地元住民は個性豊かな芸術作品と接する機会がもらえる。そのほかに経済的に個人の作業スペースを持つことが困難な作家のために、それを実費で提供することも考えられる。コンテンツ開発と芸術活動には安定した空間としての作業施設が大変重要であるからだ。また、共同作業空間があれば、作家同士の共同作業もしやすくなる。このような支援は作家の芸術的能力をさらに向上させ、その結果地域社会の文化全般の質を高めることにつながる。地域社会と作家の理想的協力関係は、地域社会を「漫画都市」へと特化した町へと成長させ、その上そこに様々な文化や経済的利益をもたらす。



まだ完璧とは言えないが、前述した作家と地域社会の協力関係の姿がわかってくる富川市を例に話してみよう。

1. 富川市には他市と比べ多くの作家が在住している。

これにはいくつかの理由があるが、最も大きな理由は作業室を提供しているところにある。

現在、富川韓国漫画映像振興院は、作家が作業できる「富川漫画創作スタジオ」を運営している。

韓国漫画映像振興院「ビジネスセンター」には計26の会社とチーム、約240名の作家が常住しており、遠美^{ウォンミ}区の「創作スタジオ」では計45の会社とチーム、約164名の作家が作業をしている。彼らは安い賃貸料で、パソコン・プリンター・コピー機といった共同0.A機器が無料で使え、様々な展示及びプロモーション専門教育などへの参加機会ももらっている。

韓国漫画を原作にした初のハリウッド映画『プリースト』の原作者であり、現在最も多くの注目を浴びているヒョン・ミンウをはじめ、3Dアニメ『ペッコム』で有名なRGアニメーションスタジオ、キム・ヨンサ出版社、コ・ウヨン、ジョ・グァンジェ、キム・ドンファ、カートウー

ンブーマー、カートゥーン創作集団アッパーカットなど現在活発に活動している約400名の作家が創作スタジオを使っている。



漫画ビジネスセンター
漫画産業のメッカ、富川

2. 漫画関連事業

次に、富川市と地元作家が共同で取り組んだ事業の例をみてみよう。それによって地域社会と作家がどのような形で（事業を？）進めていき、社会のためにいかなる成果をあげているか分かってくるだろう。

2-1 京畿道のランドマーク事業

- 京畿文化財団の支援を受け、「ボクサコル富川、Landscape&Landmark」事業を2010年10月14日から11月1日まで行った。ボクサコル富川、Landscape&Landmark事業の趣旨は次の通りである。
- 富川に存在するユニークな文化遺産を材料に、京畿道富川の地元作家15名がそれぞれの感受性と個性を生かしてカートゥーンへと再生産
 - 富川における文化人、歴史遺跡、文化芸術などをカテゴリ₃化し、各分野ごとの文化遺産や歴史的人物を再解釈
 - 各地域を特徴付ける代表的なモノを地域の景観と調和するカートゥーンイラストで表現。富川市民には自分たちの地元に対する誇りをもたせ、来客には富川市の歴史と多様な文化芸術を楽しく感じてもらう
 - 来客は富川の象徴的人物と文化芸術を通して過去、現在そして未来の富川と遭遇し、直接的ビジュアル体験の主人公となり、現在の時空間とのつながりを考える



2-2 富川の漫画ストリート

富川駅北口広場周辺を中心として品のある美しい都市環境造りに向け、漫画とアニメーションで特化されたインフラ構築及び街路（道路）施設、造形物、看板、景観照明などにデザイン要素を加えて富川漫画特化町にした。富川市の中心となるシンボル・ストリート。物語や見所満載の特化町。街路の形がユニークな魅力的な町。人々の活発な文化が誕生する文化ストリートと、テーマを分けて進めた。



2-3 芸術地区特化事業

「芸術教育特化地区事業」は、富川市の豊富な文化芸術インフラを活かし、学生にエリート芸術教育を経験する機会を与え、感受性や創意力の向上と芸術活動及びエリート芸術教育のポピュラー化を図る趣旨のもと行われている事業である。

現在、小中高の生徒を対象に富川市が選別した学校を中心に事業が展開されており、授業科目として取り入れている学校が10校、放課後の授業として行っている学校が漫画教育協力学校8校と地域連携協力学校4校など、計22の学校がこの事業に参加している。



2-4 富川市のウォールアート事業

京畿道富川の顔として知られる京仁^{キョンイン}電鉄の鉄道と並んで先へと続くソウルと仁川を結ぶ京仁路「素砂^{ソッサ}三叉路」の工具商店街は、老朽化し古くなり店舗のシャッターが色褪せているため都市環境の妨げになっているという指摘されてきた。これに対しパク・サンソル素砂区庁長は色褪せたシャッターを国際アニメーションフェスティバルと国際漫画フェスティバルなどの開催地、富川市の名にふさわしく漫画ストリートにしようと、「ウォールアート事業推進TFチーム」を構成した。韓国漫画映像振興院と共同開発の漫画キャラクターとモダンデザイン、詩と風景を基本コンセプトにデザインを考え、ソウルから仁川方向に283m⁴に及ぶ69軒の店舗のシャッターにウォールアートを施した。

구간 별 이미지

1구간 : 카툰 이미지



2구간 : 디자인 이미지



3구간 : 시화 및 모던 이미지



(위 이미지 안 글자 번역) 区間ごとのイメージ

第1区間 : 카툰 이미지

第2区間 : 디자인 이미지

第3区間 : 시及び모던 이미지

2-5 市庁의 초크아트

第10回「富川市民環境祭り」では、富川大学デジタル漫画映像科の主管のもと、チョークアート、題して「チョーク握ったことある？」が開催された。週末の遊休空間である歩行者天国になったアスファルト路上の100m区間を利用して作家と現場の市民がチョークアートに参加し、一緒になって一つの「大きな絵」にする公共 - 共同美術展示の場をもった。



2-6 ボランティア活動

富川市在住の漫画家は、様々な富川市事業に参加するほか、地域社会の役に立とうと自らの才能寄付に積極的だ。

託児所、老人ホーム、低所得者子女の勉強部屋などに出向いて、ウォールアートやカリカチュアを披露し、地域住民から多くの好評を得ている。

このようなボランティア活動はますます積極性を帯びてきて、その規模が大きくなりつつある。



富川は1998年「漫画文化都市富川」というキャッチフレーズのもと、富川国際漫画フェスティバルを開催し、現在の「韓国漫画映像振興院」の前身である「富川漫画情報センター」を設立、漫画文化と産業を支援してきた。

1999年は富川国際学生アニメーションフェスティバルを開催、2002年には現在の「京畿デジタルコンテンツ振興院」の前身である「京畿デジタルアーカイブ総合支援センター」を設立し、アニメーションと映画映像、デジタルコンテンツ分野における人材育成と知識産業基盤造りのために努めてきた。そして2006年に漫画家のUN本部とも言える国際マンガサミット事務局を設け世界都市としての礎を築いた。

しかし、漫画情報センター・韓国漫画博物館・漫画奎章閣・富川漫画フェスティバルなど富川で行われている漫画産業が年を追うごとに漫画都市としての地位を固め、それなりの結果を出しているが、固着化への心配のある現在の事業をさらに広めることで漫画都市富川としてのアイデンティティが確実に位置づけられるためのアプローチが要求されている。その一例として漫画を用いた公共芸術事業がある。

安養^{アニョン}市は、「公共美術プロジェクト」により公共空間に対し美術的アプローチを、金海^{キムヘ}市伽耶^{カヤ}は、「町プロジェクト」により歴史を町中にデザインした。さらに、ソウル市の「都市ギャラリープロジェクト」は文化的意義を公共のスペースに取り入れることで殺風景で潤いのない灰色の都市に新たな元気を与えている。

世界的な漫画都市、アングレームのように、漫画といえはすぐに思い起こす漫画都市としての富川市を目指しており、これには様々な事業と支援による実力ある作家チーム構成や作家と地域間のコミュニケーションが求められている。